

EPISODE 2 TRANSCRIPT - 日本語

皆さんこんにちは、ソーニャ・ポールです。日本の静岡県、静岡市を拠点としている静岡スピークスによろこそ。このシリーズでは、日本の言語教育界での皆さんの知らない所でどんなことが起きているのかについて、個人的な経験、教育的見方、他の文化について送りしていきたいと思います。

今、聞こえてくる歌は、今日のゲストの一人である日本語講師が歌っています。第一回目のエピソードでは、日本の公立学校での生活に慣れることについて15歳のジョギに話を聞きました。ジョギは日本で英語を学び、中国のインターナショナルスクールでも英語を学びました。

今日も引き続き言語学習についてお話しますが、今回は英語にだけではありません。今回のトピックは、英語と日本語の両方の学習方法についてです。一つの言語を理解して習得することによって、もう一つの言語にはどのように役立つのでしょうか。

後ほど、ショーの中で二人の語学講師からお話をうかがいます。一人は先ほど歌っていた日本語講師です。その前に、3人の生徒から話を聞きます。三人ともそれぞれ異なる国の出身で、静岡市にある日本語学校、国際言葉学院の卒業生です。

ファン: ファン・デュイと申します。ベトナム出身です。

ソーニャ: お名前とご出身を教えてください。

マンシ-: マナシと申します。インド出身です。

ソーニャ: おいくつですか。

マンシ-: 22歳です。

ソーニャ: お名前のスペルを教えてください。

リア: R・I・Aです。リアと呼んでください。

ソーニャ: ご出身はどちらですか。

リア: インドネシアです。

ソーニャ: リアさんはおいくつですか。

リア: 今、28歳です。

ソーニャ: 28歳ですか！！若く見えますね！！

リア: そんなことはありませんよ！！（笑）

リアさんは、年齢よりもとても若く見えます。

マンシー-さんには、去年の秋、彼女のアパートでインタビューしました。ファンさんとは、去年の春、学校で知り合いました。リアさんとも去年の春、公園でインタビューしました。インタビューの中では、それぞれに、なぜ日本語を学び始めたのか、上達するためにどんなことをしているのかについて、お話していただいています。最初はマンシー-さんです。

ソーニャ: どうして日本語に興味を持たれたのですか。

マンシー-: 実は、大学に入学したとき、何かに熱中したい、語学をしたいと思ったんです。そこでどの言語を学ぶのがよいか周りの人たちに聞いたのですが、みんな、中国語や日本語を学んでおくのととても役立つはずだと言っていました。インドには日本企業がたくさんありますからね。本当にたくさんあるんです。また、日本語を勉強するチャンスも多くありました。日本語をマスターするのがとても難しいので日本語を選択する人は少なく、非常にやりがいがあります。でも、「よし、どうにでもなれ、挑戦してみよう」と思ったんです。実は、中国語のクラスにも出席したのですが、とても奇妙な経験でした。というのも中国語には音調というものがあるからです。「ta」、「taa」、「taaa」という発音は、それぞれ別のものを指しています。それで、中国語のクラスに

出席していた頃、「こんなことできない。私には合わない。頭がおかしくなりそうだ！」と思いました（笑）。

マンシ-さんが日本語の勉強を初めて数年経ちます。インタビューをした当時、彼女が静岡に住み始めて約7ヶ月が経っていました。

マンシ-：会話については、今ではずいぶん楽に話せるようになっていると思います。文章を書くことや試験は非常に難しく、漢字が思い出せないことがよくあります。日本語の勉強はいまだに大変です。なぜなら、日本語は非常に難しい言語ですから。多くの人は日本語を話せても、漢字の大部分を書けない、ということに気付いたんです。

彼女が言う「多くの人々」とは、多くの日本人のことです。

マンシ-：このことに気付いた時はショックでした。自分たちの言語なのにとおぼろしく思いました。ですから、常に漢字の練習をしていないと、どんな漢字だったのかを思い出すのは難しいことです。

ここで少し立ち止まって、日本語の表記システムについて少しお話ししましょう。日本語は、まさに音節の言語です。例として「しずおか」について考えましょう。「し」、「ず」、「お」、「か」はそれぞれ、日本語の最も基本的な表記システムであるひらがなで書けます。この日本語は外来語の表記システムであるカタカナでも書けます。文字は異なっていますが、カタカナの読みはひらがなの読みと同じです。

それはともかく、マンシ-さんが話していたのは、漢字と呼ばれる日本語の3番目の形です。漢字の文字として中国語の文字が用いられています。漢字の各文字は複数の音節を含むことができます。「しずおか」はひらがなでは4文字ですが、漢字で書くと、

たった2文字で書けます。一つの漢字が「しず」を表し、もう一方の漢字が「おか」を表しています。

ソーニャ: わかりました。そうすると、試験で実際に漢字を書かなければいけないんですね？

マンシ-: そうです。試験に受かるために漢字を覚えなければいけません。漢字を書かずに練習もしなければ、書き方がわからず、読むこともできません。上級レベルの試験を受ける場合です。似たような漢字がたくさんありますが、書き方を知っていれば、何という漢字かわかります。

マンシ-さんが言っている試験は、JLPT（日本語能力試験）です。この試験には5つの級に分かれており、5級が一番基本的なレベルで、1級が一番上級レベルです。

ファンさんもJLPTの勉強をしています。言うまでもなく、彼は英語も話せます。しかし、英語が学校での必須科目であるのに対して、日本語は、楽しいのでたくさん勉強しようと思ったものです。

ファン: 私はアニメ、漫画、特定のジャンルの音楽などの日本文化に興味があります。

ソーニャ: 好きなアニメは何ですか。

ファン: 小さいころは、「ドラえもん」が一番好きでしたが、今では「Naruto」のアニメ版を毎回楽しく見えています。

アニメとは日本スタイルの漫画を示す言葉です。ドラえもんは青色の、のんきな猫型ロボットで、最も有名なキャラクターの一つです。Narutoは超人的な能力を持った少年が出てくる別の有名なアニメです。

EPISODE 2 TRANSCRIPT - 日本語

アニメは間違いなく、ここ最近、最も多く海外に輸出されている日本文化の一つです。ファンさんには19歳の時にインタビューしました。その後二十歳になりましたが、何年も前の少年時代に見たこの二つのアニメを覚えていました。

ファンさんの日本に対する当初の関心はマンシ-さんとはだいぶ異なったものでした。また、漢字についても彼は全く違う考え方を持っています。

ファン: ある漢字をみるとき、その意味について考えます。私たちの言語は中国語に似ていますので、何と読むのかわからなくても、意味を理解することができるんです。

漢字が中国語に由来しているということは知っていますよね。表記システムが共通しているので、日本語と中国語は似ています。

このことは私自身も知らなかったんですが、実は伝統的なベトナム語も中国語に似ているんです。多くの方が見慣れている、現代のベトナム語はローマ字と、それとは別のアクセント記号が使われています。それよりも古い、より伝統的なベトナム語の表記体系では中国語の文字が使われています。明らかに、このベトナム語と中国語の関係のおかげで、ベトナムの人は日本語を学習しやすくなっています。しかし、少なくともファンさんにとっては、その効果も十分ではないようです。

ソーニャ: 各言語のご自身のレベルを1から5までの数字で教えていただけますか。1が最も低いレベルで、5が最も高いレベルです。ベトナム語、英語、日本語の習得レベルはそれぞれどのくらいでしょうか。

ファン: ベトナム語のレベルは6と言ってもいいくらいです。

ソーニャ: 6ですか！わかりました。

ファン: 英語のレベルは、今はたぶん2です。単語や発音の多くを忘れてしまいました。日本語のレベルは約1.5です。

ソーニャ: 1.5ですか！

ファン: はい、日本語は英語の10倍難しい、というのが私の考えです。

ソーニャ: そうなんですか。

ファン: ええ。

ソーニャ: なぜ10倍難しいと思うのですか。

ファン: 英語で書く場合、読み方は一通りだけです。しかし、日本語の場合、一つの漢字の読み方が4つまたは5つほどあって、それぞれが別の意味を持つようなこともあります。

日本語についてファンさんが言っていることは事実です。しかし、英語については、読み方が常に「一通りだけ」とは限りません。中には、表記が同じでも異なる意味を持つ言葉もあります。例えば、「close」という言葉を考えてみましょう。「a close call」という語句の中での「close」の意味は、「a close call」という語句の中での意味は異なります。

この点では、英語と日本語は異なっておらず、実は似ています。しかし、全ての人がこのように考えるわけではありません。

リアさんはどうでしょう。ある意味、彼女の幼少時代の経験が日本に来るきっかけになりました。

ソーニャ: 日本に来ようと決めた理由は何ですか。

リア: 生まれた時からの夢だったんです。子供の頃からの夢だったのですが、「日本になんて行けるわけないな」と考えていました。3つ目の職に就いた時に来日するチャン

EPISODE 2 TRANSCRIPT - 日本語

スを得ました。ある日私の母から電話がかかってきてこう尋ねられたんです。「日本に行きたい？まだ日本に行きたいと思っているの？」「うん、行きたい。」「どうしても行きたいのなら、全てを捨てて、ゼロからスタートしないといけないよ。日本語から何から全部勉強しないといけないよ。」私はこう言いました。「うん、その覚悟だよ。」私は職を辞めてインドネシアで日本語6ヶ月勉強し、その後来日しました。

ソーニャ: ちょっと待ってください。

リア: 少し変ですか。

ソーニャ: 日本に来ることがなぜ子供の頃からの夢だったのですか。

リア: 私の父が一度会社の出張で、1、2ヶ月ほど日本に行ったことがあるのですが、当時、私は5歳か6歳だったと思います。父は帰ってくるなり、日本の素晴らしさを私たちに話したんです。それ以来、私は日本にとっても興味を抱くようになって、日本のビデオを見たり漫画を読んだりしました。とても面白いと思いました。それで、いつか日本に行きたいと思うようになりました。

今ではリアは日本で勉強しています。

ソーニャ: 日本語についてどう思いますか

リア: とっても難しいです（笑）。最初のうちは皆さん「楽しい、日本語を勉強するのは素晴らしい」と思われます。けれど、日本語を使って生活しなければならなくなると大変です。私も、いまだにそれで苦労しています。

ソーニャ: インドネシアで日本語を勉強することと、日本で日本語を勉強することに大きな違いはありますか。

リア: そうですね、実際には、それほど違いません。でも、理論だけでは言語を学べません。私の日本語が上達したのは、学校よりも、ほとんどはアルバイトのおかげです。つまり、直接人と話すことです。仕事を通して私の日本語は上達しました。

マンシー、ファン、とリアは、それぞれ異なる日本語学習法を教えてくださいました。書く、認識する、話す、です。では、特定の方法は他の方法に比べて効果があるのでしょうか。日本語学習には、特定の方法を使うことが求められるのでしょうか。英語の場合はどうでしょうか。日英で違うのでしょうか、似ているのでしょうか。

これらの疑問を解決するべく、国際ことば学院と提携する学校に所属する二人の先生にお話を伺いました。この学校には、言語学習を続けたいと考える国際ことば学院の卒業生が通っています。彼らが勉強するのは日本語だけではなく、日本語に加えて、中国語、韓国語、英語も勉強します。

西貝: 名前は西貝れいこです。

西貝れいこさんは、学校の日本語教師です。（ここで、彼女に自己紹介と何を教えているかを話してもらう）

西貝: 私は静岡県出身です！清水市で生まれました。

小林のりこさんは学校の英語教師です。

小林: 英語を学ぶと、世界中とつながることができます。だから英語はすごく面白いと思ったんです。

日本人の学生は教師のことを「先生」と呼ぶので、二人のことを西貝先生と小林先生と呼ぶことにしましょう。

ソーニャ: 外国語を教えるという点で、英語と日本語で大きな違いがあると思いますか。教授法が少し違うんでしょうか。

西貝: 英語では、発音と発話が何よりも重要です。日本語では、発話よりも沈黙することが重要な場合があります。また、日本語は視覚的な言語だと思います。日本語の文字を教えることは大変難しいです。どう思いますか... (ごめん、ちょっと)

今お聞きになったように西貝先生は英語を話せますが、このトピックは少し複雑なので、彼女の考え方を日本語で小林先生に伝えています。

小林: 彼女は、英語はどちらかという音中心の言語だと言っています。フォニックスが重要です。日本語と比べた場合、日本語はより視覚的な言語です。視覚的な言語とはどういう意味なのでしょう。

これは良い質問です。

小林: 英語の教授法と日本語の教授法が常に同じとは限りません。既に漢字の知識がある中国人の生徒のように、漢字がわかる人は、普通、何の問題もなく、漢字を学び、習得していきます。しかし、これまで漢字を見たことがなく、異なる表記システムを用いる言語が母国語の生徒にとっては、日本語を書くのは非常に困難です。また、彼女が言うには、英語では、考えていることを口に出して説明しなければなりません。日本語では、言葉や文字の裏に多く意味が隠されています。

意味が隠されている？ どういう意味なのでしょう。

小林: 日本語には文脈がたくさんあります。

うーん、でも「文脈」自体にも多くの意味がありますよね。ですから、「文脈」を「副題」だとか「ニュアンス」だと考えると良いかもしれません。たしかに、日本文化と日本語には両方とも微妙なニュアンスが存在します。

例えば、日本語での会話では、ボディ・ランゲージが重要な役割を果たします。このことは、日本語と比較して英語がより「音声中心」であるように思われる理由だと言えるかもしれません。日本語を話す人と比べて、英語を話す人は、微かに暗示するよりも伝えたいことを実際に口に出す傾向が高いです。

日本語の文脈について考える別の方法として、発話と筆記が挙げられます。相手が文脈から推測できるので、日本語では文の主語が省略されます。

実際の漢字には、背景に歴史、文化、情緒があり、これらが個々の意味や読み手の解釈の仕方に影響します。小林先生は、漢字には「意味が隠されている」とおっしゃっていましたが、それは恐らくこのことを指すのでしょう。

ソーニャ: 語学教師のお二人にお尋ねしますが、全ての言語と全ての生徒に対して適用できるような言語教授法はございますか。

小林: 先生は歌を使って教えることが多いですね。

西貝: うーん、それは私が歌好きなせいです。

小林: 西貝先生が歌好きだからだったんですか！生徒も歌が好きな場合、効果絶大ですよ。

西貝: ただ、うまくいかない場合もあります。例えば、ベトナム人の方は歌うのが好きではありません。一度、中国人の生徒から「なぜ私たちに歌を歌わせるんですか」と言われたことがあります。

西貝: 本当ですか。

ソーニャ: 例えばどんな歌か教えていただけますか。

西貝: 歌の例ですか? 日本語で?

ソーニャ: はい...。

西貝: 日本語で数え歌と呼ばれるものです。日本の女性シンガーソングライターの歌なのですが、彼女は世界平和のためにこの歌を書いたんですよ。数を数えながら歌うことで、お互いを知り合えますし、何とというか、違う国同士の壁がなくなるような、そんな感覚です。例えばこういう歌です。

(歌)

ソーニャ: 素晴らしい! ありがとうございます!

西貝: 私、恥ずかしがり屋なんです!

小林: そうは思えません。

ソーニャ: 本当に素晴らしい!

西貝: この歌を通して、たくさんのことを教えています。例えば数え方、リンゴが一つ、リンゴが二つ、リンゴが三つ、といった具合です。数え方にも色々な種類があり、とても難しいです。

日本語と英語のどちらでも、多くの教育者がその言語を教える際に歌を用いています。しかし、西貝先生と小林先生は重要な問題点について言及しています。中には歌うのが恥ずかしい生徒もいるのです。それに、日本語と日本文化は、あまり直接言葉に出さないという特徴もあります

このような問題が出てきます。どうすれば、推測や文脈を通じて意思表示をすることに慣れ親しんでいる生徒たちに、英語のようなより明示的な言語に慣れてもらうことができるのでしょうか。

小林: もしご存知でしたら、言っていただきたいのですが(笑)。全ての生徒に適用できる教授法があるとは思いませんが、歌やゲームは緊張を解くきっかけになります。しかし、徐々に効果が出てくる方法としては、演習と読書をすることが本当に必要です。学習の中でこのプロセスは大切だと考えます。

第一回に登場してもらったスーザンさんを覚えていますか。彼女は中学校の日本人英語教師です。言語学習について次のような点を付け加えています。

スーザン: 生徒には学習のモチベーションを持ってほしいと思います。ここ何年もこの点について考えているんですよ! 私にとってのモチベーションは、他の国の人たちとコミュニケーションを取りたいということですが、モチベーションはなんでも構いません! 英語の音楽を聞くことや、外国に行きたいという生徒もいます。モチベーションは非常に大切です。

モチベーションですか。あのことわざが当てはまることもあるということですね。意志あるところに道あり。

ゲストの皆さん小林先生, 西貝先生, マンシー, ファン, リア、ありがとうございました。続くシリーズのポッドキャストでは、今回の登場したゲストの方からもっとたくさんのお話を伺いたいと思います。

来週のテーマ: どんな言語背景を持つかによって違いはあるのか

EPISODE 2 TRANSCRIPT - 日本語

中国、韓国、台湾出身の生徒は大丈夫なのですが、他の国の出身者の中には、どれほど長い期間日本に滞在していても、漢字を読み書きができない人たちがいます。

来週も静岡スピークスをよろしくお願いします。ソーニャ・ポールがお送りしました。聞いていただいてありがとうございました。